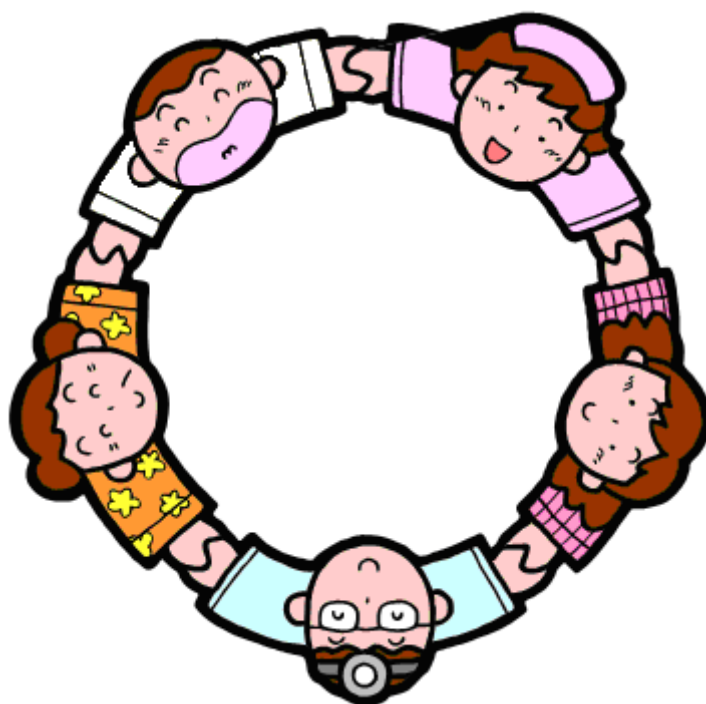


AC(40/500)療法 の手引き



2020年2月改定版

国立がん研究センター中央病院
乳腺・腫瘍内科 薬剤部 看護部

はじめに

乳がんの薬の治療には、ホルモン療法、抗がん剤、抗体療法などがありますが、なかでも AC 療法は乳がんの代表的な抗がん剤治療です。

AC 療法とは、ドキソルビシン(Doxorubicin)とシクロフォスファミド(Cyclophosphamide)という2種類の異なる作用機序の抗がん剤を組み合わせた治療であり、その頭文字をとって AC 療法と呼んでいます。

抗がん剤治療には誰もが不安や心配を抱くものです。しかし、副作用は薬の種類によっても異なりますし、その出かたには個人差があってすべての人に同じように起こるわけではありません。また現在では副作用を軽減する治療法がかなり発達し、日常生活を送りながら外来通院で治療することも可能になってきました。

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。

この小冊子には AC 療法によって起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。これから抗がん剤治療を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

方 法

《点滴に用いられる薬》：

以下の 4 本の点滴ボトルを順番に点滴します。





<u>ボトルの内容</u>	<u>点滴時間</u>
グラニセトロン注+デキサメタゾン注（吐き気止め）	約 15 分
ドキシソルピシン注（抗がん剤）	約 15 分
シクロホスファミド注（抗がん剤）	約 30 分
生理食塩液（点滴管内の抗がん剤を洗い流す）	約 5 分

《注射方法》：

3 週間ごとに ____ サイクルの点滴を行います

点滴にかかる時間は約 60 分です。

（点滴当日に採血を行い、データを確認いたします。）

サイクル	1			2			3			4		
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
点滴		休	休		休	休		休	休		休	休

《点滴後の内服薬》



デカドロン錠 4mg



吐き気止め

朝夕食後に 1錠ずつ服用 点滴 2日目朝より 3日間服用



メトクロプラミド錠(プリンペラン)5mg



吐き気止め

吐き気がする時に 1回に 1-4錠服用

(4時間以上空け 1日4回まで追加可)

□ シプロキサン®錠 (シプロフロキサシン) 200mg



抗菌薬

1日3回 1回2錠 7日間服用

(熱が下がっても 7日間飲み続けて下さい)

(3日経っても解熱しない時は病院に連絡してください)

□ クラビット®錠 (レボフロキサシン) 500mg



抗菌薬

1日1回 1回500mg 7日間服用

(熱が下がっても 7日間飲み続けて下さい)

(3日経っても解熱しない時は病院に連絡してください)



カロナール®錠(アセトアミノフェン) 200mg

発熱時の症状をやわらげる。

38℃以上の熱が出てつらい時に 2錠ずつ服用する。

(熱が下がったら、飲み続ける必要はありません)

注射名 : ドキソルビシン注



赤色透明

ドキソルビシンは、がん細胞の DNA の間に入り込み、その細胞の成長を止めたり、死滅させる作用を持つくすりです。

点滴で体内へ徐々に注射します。

くすりの色は赤色をしています。くすりを注射してから1～2日の間、尿や汗に色（赤色・桃色・橙色等）がつくことがありますがお心配いりません。その後、元に戻ります。

もし点滴中に痛みを伴うようなことがありましたら医療スタッフにご相談ください。



また心臓に既往歴のある方は、事前に医師へご相談ください。

注射名：シクロホスファミド注



無色透明

シクロホスファミドは、がん細胞の DNA にくっつき、その細胞の成長を止めたり、死滅させる作用を持つくすりです。

このくすりは、体の中で分解され、尿として排泄されます。

この尿が膀胱内に長時間たまると、時に炎症を起こすことがあります。



くすりを注射してから1～2日の間は、普段より多めに水分を取り、トイレの回数を多くするとよいでしょう。

【 副作用とその対策 】



この AC 療法を行った際の副作用は、すべての方に起こるわけではありません。その程度には個人差があります。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

脱 毛 : くすりを注射してから 2～3 週間過ぎた頃より、髪の毛が抜けてきます。しかし、この脱毛は一時的なもので、注射を終了してから 2～3 ヶ月で回復し始めます。

対 策 : 髪の毛が回復してくるまでの間、かつらやスカーフなどをご用意すると良いでしょう。またショートヘアーにするなど清潔さを保つことも大切です。シャンプーは刺激の少ないものを使用しましょう。そして外出の際は直射日光を避けるため帽子をかぶると良いでしょう。



悩んだり、不安になる前に、外見に関するご心配ごとがあれば、
アピアランス支援センターまでご相談ください。

※オレンジクローバーはアピアランス支援センターのシンボルマークです

吐き気・嘔吐 : この AC 療法では、最初に吐き気止め

を点滴し、予防します。くすりを注射しても吐き気や嘔吐の症状が現れることがあります。抗がん剤を注射した当日に現れる急性のものと、注射終了後2～7日目に現れる遅延性のものがあります。

もし症状が現れた場合は以下の対策を参考にしてください。

対 策 :

吐き気止めの内服薬が処方されますので、指示どおりに服用してください。吐き気のコントロールがうまくいかない場合、次回診察時に工夫をします。吐き気の程度・吐いた回数・食事の摂取量・排便の状況を記録し、担当医に伝えてください。



吐き気止め(グラニセトロン)で便秘を起こすことがあります。便秘は吐き気の誘因となるので、下剤(プルゼニド(成分名:センノシド))を利用し、定期的な排便を心がけましょう。



食事が取れないときは、なるべく水分をとるよう心掛けましょう。(水・フルーツジュース・スポーツ飲料など)。また消化の良い食事を少量ずつ何回にも分けて取られるのも良いでしょう。また口の中を清潔にしたり、室内の換気を十分にすることで予防することもできます。趣味を楽しみ、気を紛らわすこともときに効果的です



白血球減少

白血球は、体内へ細菌が入り込まないように守っている血液成分の1つです。一般的にくすりを注射してから1～2週間目に白血球の数が少なくなり、3～4週間目で回復してくるといわれています。白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、発熱や感染を起こす可能性があります。白血球が減っている時期には予防策が大切です。また扁桃炎・虫歯・歯槽膿漏・膀胱炎・痔などがある方は、あらかじめ担当医へご相談ください。



対策：

感染の予防のために、手洗いやうがいをしましょう。まだ治療が済んでいない虫歯は、あらかじめ治療しておきましょう。

一般的に、AC療法の場合20人に1人程度の割合で発熱する方がいます。もし38℃以上の熱がでた場合は、処方された抗菌薬(レボフロキサシンまたはシプロフロキサシン)を服用しましょう。3日間服用しても熱が下がらない時や、下痢などその他の症状が重なりつらい時は、病院へ連絡してください。



口内炎 :

おくすりを注射してから一週間前後に起こすことがあります。

対策 :

予防のため、口の中を清潔にし、うるおいを保っておくことが重要です。歯ブラシはやわらかいものを使い、しっかりと歯と歯ぐきをブラッシングしましょう。



刺激の強い食べ物や熱すぎる食べ物は避けてください。また口の中に痛みがある場合には、そこに触れないようにストローなどを使って水分を取るのも良いでしょう。



痛みが続き、食事や水分が取れない場合には、担当医に相談してください。

皮膚や爪への影響 :

主に手足の皮膚にしみができたり、爪が黒くなることがあります。一時的なものが多く、注射が終了すれば、次第に回復してきます。



外出の際は直射日光を避けるため帽子や日傘などを用意すると良いでしょう。

かさかさ感には保湿クリームなどを用いるのも効果的です。

卵巣への影響

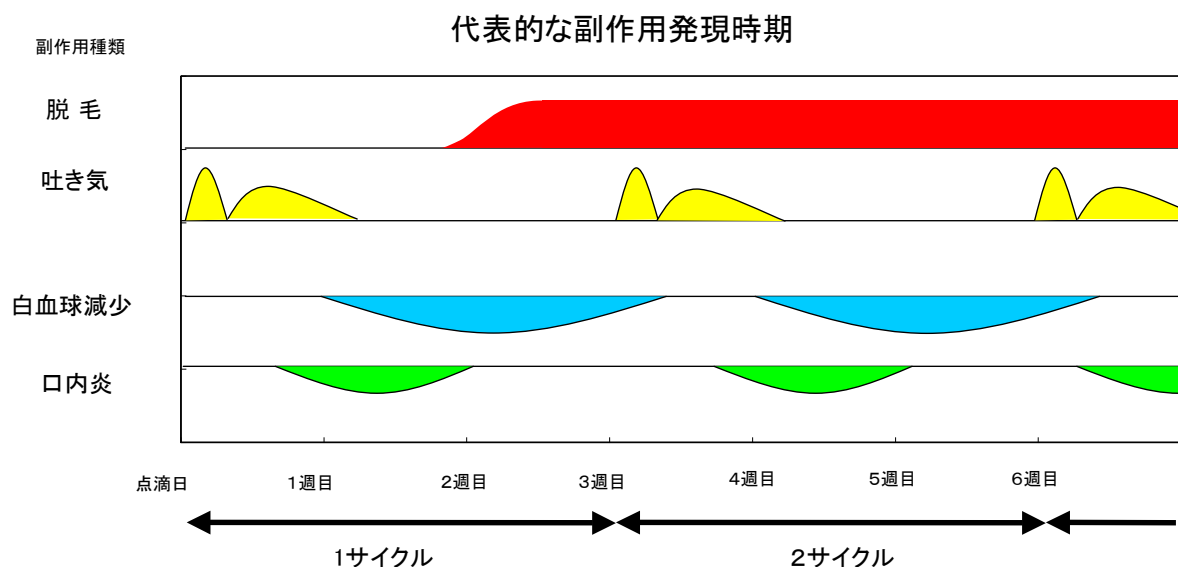
ときに卵巣の機能が低下し、月経不順

や月経の停止にともなう更年期症状(ほてり、発汗、膣乾燥感)などが現れる可能性があります。

注射部位における皮膚障害

このくすりは、注射の際のわずかな漏れでも皮膚障害を起こすことがあります。くすりを注射している間に、その注射部位が赤く腫れたり、痛みを感じる場合には、すぐに医療スタッフへお申し出下さい。またご自宅へ戻られた後、数日以内に同様な変化が見られてもご相談ください。

その他気になる症状がありましたら、医療スタッフへご相談下さい。



～ AC療法 Q&A ～

Q1. AC療法を行っている間は、外へ出ない方がいいのかしら？

→A1. 基本的に日常生活上の制限はありません。買い物や散歩、また体調がよければ遠出も可能です。外出から戻られた際には手洗いとうがいを！また遠出を計画する場合には、タイミングや副作用の対策について担当医とよく相談しましょう。

Q2. 食事が取れないときのくすりの飲み方は？

→A2. このパンフレットに載っている内服薬（P. 3参照）の飲み方で『食後に服用』とありますが、食事が取れないときにはくすりのために無理して食事を取る必要はありません。もし可能なら少し多めの水でくすりを飲むと良いでしょう。

Q3. 髪が抜け始めるころに頭皮がピリピリするのですが？

→A3. 初回点滴2週間後ぐらいから髪の毛が抜け始めてきます。眉毛やまつ毛も同様です。また髪の毛が抜けるときにピリピリ感が出てくることもあるので、頭皮への刺激はなるべく避けましょう。

Q4. 治療中に風邪を引いたら風邪薬を飲んでも良いですか？

→A4. AC療法の影響を受け白血球の数が少なくなり始めるまで、点滴が終了してから約7日間かかります。それまでのあいだは、市販の風邪薬を飲んでもかまいません。それ以降は、市販の風邪薬を控え、様子を見て下さい。市販の風邪薬によって本来上がるはずの熱が上がらずに、抗菌薬を服用するタイミングが遅れてしまいます。

発熱が38℃以上になるようでしたら、すぐに抗菌薬の服用を始めて下さい。

Q 5. AC療法で治療中の間は、がんの検査は行わないのですか？

→A 5. 症状により担当医が必要であると判断した場合には検査を行います。AC療法のあいだは、原則として検査を行いません。

Q 6. 健康食品や漢方薬は飲んででもいいですか？

→A 6. AC療法治療中には、がんに効くと宣伝されている健康食品や漢方薬の服用は控えて下さい。それらは、効果や安全性が確認されていません。また抗がん剤とどんな相互作用が起こるのか予測もできません。どうしてもそれらの健康食品や漢方薬などを試してみたい方は、始める前に一度担当医にご相談下さい。

Q 7. 相談や連絡のタイミングは？

→A 7. 38℃以上の発熱時に抗菌薬を飲んで熱が下がらない場合、熱が高くなくても下痢がひどい、様々な症状が重なってつらい場合には病院へ電話をして下さい。

また対応に悩み、不安が強い場合にはどうぞご連絡下さい。



🌀 監修 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科

🌀 編集 薬剤部

🌀 編集協力 乳腺・腫瘍内科

看護部

🌀 撮影協力 フォトセンター



使用イラストはMPC刊「薬と予防イラスト集」「医療と健康イラスト集」より転載